

一般国道9号(中山名和道路)の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ

鳥取県西伯郡大山町

HINO KUCHI NISHI NO SUE
樋口西野末遺跡Ⅱ

鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書48

樋口西野末遺跡Ⅱ

二〇三二

鳥取県埋蔵文化財センター
国土交通省 倉吉河川国道事務所

2012

鳥取県埋蔵文化財センター
国土交通省 倉吉河川国道事務所

一般国道9号(中山名和道路)の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ

鳥取県西伯郡大山町

HINO KUCHI NISHI NO SUE
樋口西野末遺跡Ⅱ

2012

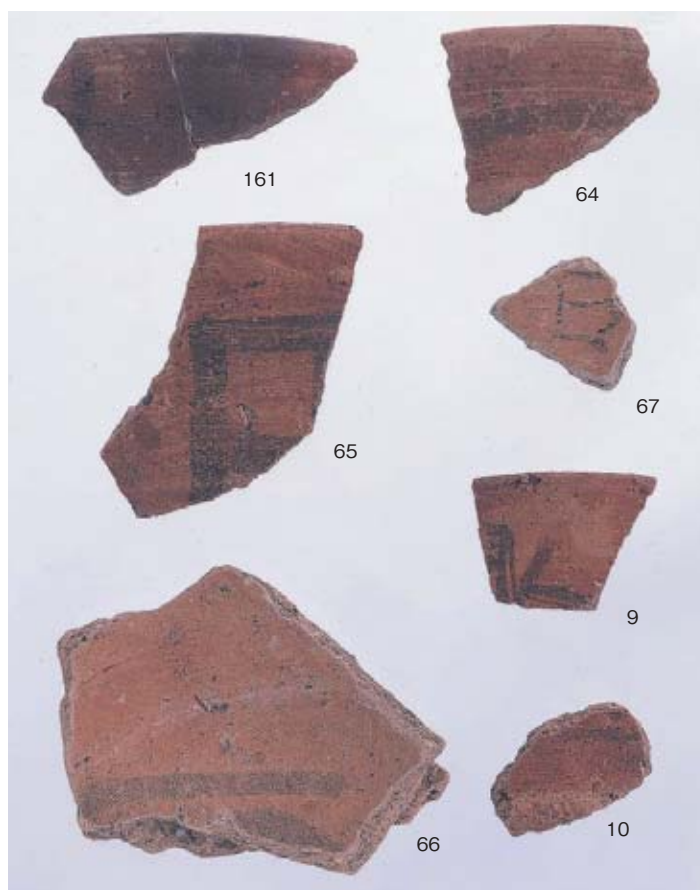
鳥取県埋蔵文化財センター
国土交通省 倉吉河川国道事務所



SB3・4完掘状況(南から)



1 調査区完掘状況(上空から)



2 樋口西野末遺跡出土墨書土器

序

鳥取県埋蔵文化財センターは、一般国道9号中山名和道路の改築に伴う発掘調査を、平成21年度から実施し、平成23年度末時点で遺跡数は10遺跡、調査面積は延べ5万1千平方メートル以上に及んでいます。

本書に掲載した、大山町に所在する樋口西野末遺跡では、奈良時代から中世にかけての遺構を検出するに至りました。この内、平安時代の遺構では、廂付の大型掘立柱建物や柵列、溝などで構成される施設を確認するとともに、転用硯や墨書土器などが出土しました。確認した遺構や遺物は、官衙関連施設がこの地に存在していたことを想定させ、この地域の歴史を解明するための重要な資料となりました。

鳥取県埋蔵文化財センターでは、発掘調査の実施に加え、発掘調査により明らかとなった遺跡や出土品を活用し、その普及啓発に努めることも重要な業務としております。

樋口西野末遺跡では、現地説明会を開催し、ご来場いただいた県内外からの方々にその素晴らしさを実感していただきました。

本書は、その調査結果を報告書としてまとめたものです。この報告書が、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財が郷土の誇りとなることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力をいただきました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成24年10月

鳥取県埋蔵文化財センター

所長 久保 穰二郎

序 文

一般国道9号は山陰地方を東西に結ぶ主要幹線道路であり、広域交通はもとより、観光交通、生活交通など、多様な交通を担う重要な路線です。

このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、鳥取市青谷町から米子市(鳥取島根県境)までを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところ です。

中山名和道路は、西伯郡大山町八重から同町下市にかけての多種多様な交通による交通混雑の緩和、安全・円滑な交通の確保のほか、災害時の緊急輸送路の代替路線としての機能分担などを目的とし、さらに、山陰の地方都市間の連携を強化するとともに、環日本海交流の基幹軸の一翼を担う高規格幹線道路(自動車専用道路)として整備を行っています。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第94条の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

平成23年度は、「樋口西野末遺跡」、「石井垣上河原遺跡」、「赤坂頭無し遺跡」、「赤坂小丸山遺跡」、「殿河内定屋ノ前遺跡」、「殿河内上ノ段大ブケ遺跡」の6遺跡の本調査について、鳥取県埋蔵文化財センターと発掘調査の委託契約を締結し、発掘調査を行いました。

本書は、上記の「樋口西野末遺跡」の調査結果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深めるため、ならびに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることをご理解いただければ幸いと存じます。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集に至るまでご尽力いただいた鳥取県埋蔵文化財センターの関係者に対して、心から感謝申し上げます。

平成24年10月

国土交通省 倉吉河川国道事務所
所 長 角田 文敏

例 言

- 1 本報告書は、国土交通省倉吉河川国道事務所の委託により、鳥取県埋蔵文化財センターが一般国道9号(中山名和道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として、平成23年度に行った樋口西野末遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本報告書に記載した遺跡の所在地及び調査面積は以下のとおりである。
西伯郡大山町八重字広田862-3ほか 調査面積：3,566㎡
- 3 本報告書で示す標高は、国土交通省2級基準点H10-2-13の71.286mを基準とする標高値を使用した。方位は公共座標北を示す。磁北は、座標北に対し、約7°3′西偏する。なお、X：、Y：の数値は世界測地系に準拠した公共座標第V系の座標値である。
- 4 本報告書に掲載した地形図は、大山町作成の「大山町地形図」を使用した。
- 5 本報告にあたり、以下の内容を業者委託した。
調査前方眼測量、調査後航空写真撮影、調査後地形測量
- 6 本報告書に掲載した遺物の実測・浄書は埋蔵文化財センターが行った。
- 7 本報告書で使用した遺構・遺物写真は調査担当職員が撮影した。
- 8 本報告書の編集は牧本・家塚が行った。執筆は調査担当職員が分担して行い、目次に執筆者名を記した。
- 9 発掘調査によって作成された図面・写真などの記録類、出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターに保管している。
- 10 現地調査及び報告書作成にあたっては、大山町教育委員会に御協力いただいた。明記して深謝いたします。

凡 例

- 1 遺物の注記における遺跡名には「西ノスエ」の略語を用い、併せて「遺構名、遺物番号、日付」を記入した。
- 2 本報告書で用いた遺構・トレンチの略号は以下のとおりである。
SB：掘立柱建物跡、SK：土坑、SD：溝、SA：柵列、P：柱穴・ピット
- 3 本調査における遺構番号は、基本的に発掘調査時のものと一致している。
- 4 本書における実測図の縮尺については、特殊なものを除き基本的に以下の縮尺としている。
遺構図 SB：1/80、SK：1/40、SD：1/80・1/100、SA：1/80、1/120
遺物出土状況・焼土出土状況：1/20・1/40
遺物実測図 土器・土製品：1/4、石器：1/3・1/4
- 5 本書における土層名称は、基本的に『新版 標準土色帖』にならった。
- 6 遺構図・遺物実測図に用いたトーン及び記号は、特に説明がない限り以下のとおりである。
■：赤色顔料付着範囲 S：石器・礫
遺物出土ポイント：●(土器)・□(石器)
- 7 遺物実測図の断面は須恵器を黒塗りとし、それ以外のものは白抜きで示している。また、遺物実測図中における記号は以下のとおりである。
→：ケズリの方向(砂粒の動き)
- 8 柱穴一覧表及び遺物観察表の法量記載における※は推定復元値、△は現存値を示す。
- 9 本報告書における遺構・遺物の時期決定は下記参考文献を参照した。

参考文献

- 小林達雄編 1989 『縄文土器大観4』小学館
- 小林謙一 2008 「縄文時代の暦年代」『縄文時代の考古学2 歴史のものさし－縄文時代研究の編年体系－』同成社
- 清水真一 1992 「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年－山陽・山陰編－』木耳社
- 濱田竜彦 2003 「大山北麓地域における弥生時代後期土器の編年」『史跡妻木晩田遺跡第4次発掘調査報告書－洞ノ原地区西側丘陵の発掘調査－』鳥取県教育委員会
- 牧本哲雄 1999 「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ・園第6遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団
- 田辺昭三 1981 『須恵器大成』角川書店
- 八嶋 興 2000 「因幡・伯耆の製塩土器に関する一予察」『古文化談叢』第44集 九州古文化研究会
- 八嶋 興 2011 「鳥取県における古代須恵器の様相－奈良・平安時代を中心に－」『平成22年度 埋蔵文化財職員専門研修「遺物調査検討課程」『古代の須恵器』』鳥取県埋蔵文化財センター
- 巽淳一郎 1983 「古代窯業生産の展開－西日本を中心にして－」『文化財論叢』奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集
- 八嶋 興 2004 「山陰の中世土器に関する覚書」『中近世土器の基礎研究』XⅧ 日本中近世土器研究会編
- 重根弘和 2003 「中世備前焼に関する考察」『山口大学考古学論集』近藤喬一先生退官記念事業会
- 木村孝一郎 2008 「越前焼研究ノート」『吾々の考古学』和田晴吾先生還暦記念論集刊行会
- 横田健次郎・森田 勉 1978 「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』
- 森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究2』日本貿易陶磁研究会
- 上田秀夫 1989 「14から16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究2』日本貿易陶磁研究会
- 愛知県史編纂委員会 2007 『愛知県史 別冊 窯業2』
- 藤沢良祐 2001 「瀬戸・美濃大窯製品の生産と流通－研究の現状と課題－『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品－東アジア的視野から－資料集』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター

目次

序

序文

例言

凡例

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯……………(牧本) 1

第2節 調査の方法と経過……………(牧本) 2

第3節 調査体制……………(牧本) 4

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境……………(牧本) 5

第2節 歴史的環境……………(牧本) 5

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の立地と基本層序……………(牧本) 9

第2節 遺跡の概要……………(牧本) 9

第3節 奈良・平安時代の調査成果

1 概要……………(牧本)13

2 掘立柱建物跡……………(家塚・牧本)13

3 柵列……………(牧本)22

4 土坑……………(家塚・牧本)24

5 自然河川・溝……………(家塚・牧本)28

6 ピット群……………(牧本)37

7 焼土……………(家塚)39

第4節 中世の調査成果

1 概要……………(牧本)41

2 掘立柱建物跡……………(牧本)41

3 柵列……………(牧本)43

4 溝……………(牧本)44

5 ピット群……………(牧本)44

第5節 時期不明の遺構

1 土坑……………(牧本)46

2 焼土……………(家塚)47

第6節 包含層遺物について

1 西側谷部包含層出土遺物……………(牧本)48

2 C6・7、D6・7、E6・7グリッド包含層出土遺物……………(牧本)50

第7節 遺構外遺物について……………(牧本)51

第4章 総括

第1節 古代の樋口西野末遺跡	(家塚)200
第2節 中世集落の様相	(牧本)202
遺物観察表	61～67

挿図目次

第1図 中山名和道路関係遺跡位置図	1	第30図 SD 5 出土遺物	32
第2図 調査区位置図	3	第31図 SD 5・8	33
第3図 樋口西野末遺跡区割り図	3	第32図 SD 6	34
第4図 樋口西野末遺跡位置図	5	第33図 SD 7	34
第5図 周辺遺跡分布図	7	第34図 ピット群 2	35・36
第6図 調査区基本層序	9	第35図 焼土 1～3	39
第7図 樋口西野末遺跡遺構配置図	11・12	第36図 焼土 1～3 出土遺物	40
第8図 奈良・平安時代遺構配置図	13	第37図 中世遺構配置図	41
第9図 SB 3(1)	14	第38図 SB 7	42
第10図 SB 3(2)	15	第39図 SB 8	43
第11図 SB 3 出土遺物	17	第40図 SA 2	44
第12図 SB 4(1)	18	第41図 SD 4	44
第13図 SB 4(2)	19	第42図 SD 4 出土遺物	44
第14図 SB 4 出土遺物	20	第43図 ピット群 1	45
第15図 SB 5	21	第44図 時期不明遺構配置図	46
第16図 SB 5 出土遺物	21	第45図 SK 4	46
第17図 SB 6	22	第46図 SK 4 出土遺物	46
第18図 SB 6 出土遺物	22	第47図 SK 6	47
第19図 SA 1	23	第48図 焼土 4	47
第20図 SA 3	23	第49図 西側谷部出土遺物(1)	49
第21図 SK 5(1)	25	第50図 西側谷部出土遺物(2)	50
第22図 SK 5(2)	26	第51図 C 6・7、D 6・7、E 6・7 グリッド 包含層出土遺物	50
第23図 SK 5 出土遺物	27	第52図 遺構外出土遺物	51
第24図 SK 7	28	第53図 樋口西野末遺跡古代遺構配置図	54
第25図 SK 7 出土遺物	28	第54図 因幡・伯耆国官衙位置図	56
第26図 SD 1(1)	29	第55図 樋口西野末遺跡中世遺構配置図	57
第27図 SD 1(2)	30	第56図 中世土器・陶磁器の組成図	58
第28図 SD 1 出土遺物(1)	31		
第29図 SD 1 出土遺物(2)	32		

挿表目次

表1 SB3柱穴一覧表……………16	表11 SA2柱穴一覧表……………43
表2 SB4柱穴一覧表……………20	表12 ピット群1ピット一覧表……………45
表3 SB5柱穴一覧表……………21	表13 中世土器・陶磁器組成表……………58
表4 SB6柱穴一覧表……………21	表14 土器・土製品観察表(1)……………61
表5 SA1柱穴一覧表……………22	表15 土器・土製品観察表(2)……………62
表6 SA3柱穴一覧表……………23	表16 土器・土製品観察表(3)……………63
表7 ピット群2ピット一覧表(1)……………38	表17 土器・土製品観察表(4)……………64
表8 ピット群2ピット一覧表(2)……………39	表18 土器・土製品観察表(5)……………65
表9 SB7柱穴一覧表……………41	表19 土器・土製品観察表(6)……………66
表10 SB8柱穴一覧表……………43	表20 石器・石製品観察表……………67

巻頭図版目次

巻頭図版1 SB3・4完掘状況(南から)	巻頭図版2 1 調査区完掘状況(上空から)
	2 樋口西野末遺跡出土墨書土器

図版(PLATE)目次

P L. 1 調査前航空写真(南上空から)	2 SB5検出状況(北から)
2 調査前航空写真(北上空から)	3 SB6検出状況(北東から)
P L. 2 調査後航空写真(上空から)	P L. 9 SA1、SD5・8完掘状況(南から)
P L. 3 1 調査後航空写真(北上空から)	P L. 10 SA1、SD5検出状況(南から)
2 調査後航空写真(西上空から)	P L. 11 1 SA3完掘状況(南から)
P L. 4 1 調査後航空写真(南上空から)	2 SK5遺物出土状況(北西から)
2 古代遺構群完掘状況(上空から)	3 SK5完掘状況(南から)
P L. 5 SB3・4完掘状況(南から)	4 SK7土層断面(北西から)
P L. 6 SB3・4検出状況(南から)	5 SK7完掘状況(北から)
P L. 7 1 SB3P2土層断面(西から)	P L. 12 SD1遺物出土状況(南東から)
2 SB3P3土層断面(西から)	P L. 13 SD1完掘状況(南東から)
3 SB3P6土層断面(北西から)	P L. 14 1 SD5土層断面D-D'(北から)
4 SB3P18土層断面(西から)	2 SD5土層断面A-A'(南から)
5 SB4P1土層断面(西から)	3 SD6土層断面B-B'(北から)
6 SB4P2土層断面(西から)	4 SD7完掘状況(西から)
7 SB4P5土層断面(西から)	5 焼土1~3検出状況(南から)
8 SB4P6土層断面(南東から)	P L. 15 SB7・8、ピット群1完掘状況(南から)
P L. 8 1 SB5・6完掘状況(北から)	P L. 16 1 SA2完掘状況(東から)

	2	SD 4 完掘状況(南東から)	P L. 22	1	SD 1 出土須恵器坏70
	3	SD 4 検出状況(南から)		2	SK 5 出土須恵器坏23
P L. 17	1	SK 4 土層断面(南から)		3	SK 5 出土須恵器鉢24
	2	SK 4 完掘状況(東から)		4	SK 5 出土須恵器甕25
	3	SK 6 土層断面(北西から)		5	焼土1～3 出土須恵器壺90
	4	SK 6 完掘状況(北から)	P L. 23		西側谷部出土遺物(1)
	5	焼土4 検出状況(北から)	P L. 24		西側谷部(2)、C6・7、D6・7、E6・7 グリッド包含層(1)、遺構外出土遺物(1)
	6	焼土4 断ち割り状況(北東から)	P L. 25	1	C6・7、D6・7、E6・7 グリッド包含層出土遺物(2)
P L. 18		SB3・4・5・6、SK5・7、焼土1～3 出土遺物		2	樋口西野未遺跡出土石器
P L. 19		SD 1 出土遺物(1)	P L. 26		西側谷部(3)、遺構外出土遺物(2)
P L. 20		SD 1 出土遺物(2)			
P L. 21		SD 1 出土遺物(3)			

文中写真図版目次

文中写真1	重機表土剥ぎ作業……………40	文中写真4	現地説明会風景1……………47
文中写真2	道路下重機表土剥ぎ作業……………40	文中写真5	炭化米顕微鏡写真……………52
文中写真3	検出作業風景……………45	文中写真6	現地説明会風景2……………52

第1章 調査の経緯

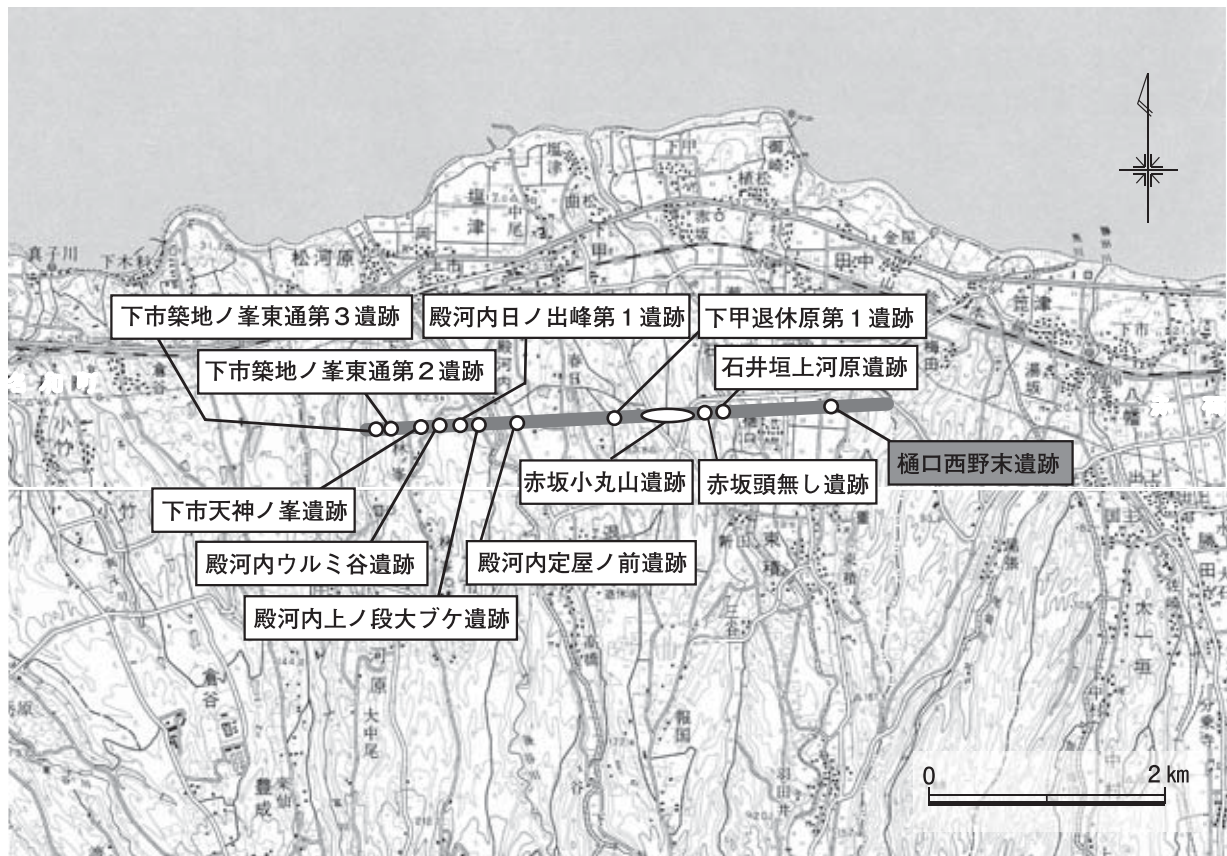
第1節 調査に至る経緯

本調査は、平成23年度一般国道9号中山名和道路の改築に伴い行った、西伯郡大山町八重地内の工事予定地内に所在する、周知の埋蔵文化財包蔵地(以下遺跡)である樋口西野末遺跡の本発掘調査である。本遺跡では、平成21年度に遺跡東側部分の発掘調査を行い、今回はその西側部分の調査である。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替道路確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められ、鳥取県西部地域では、米子道路、名和淀江道路が自動車専用道路として一部供用されている。

このうち、大山町を通る中山名和道路の計画地内及び隣接地には、多数の遺跡があり、建設に先立って計画地内の遺跡の有無・範囲・性格・内容等を確認する必要性が生じた。このため、平成19年度から大山町教育委員会によって、国庫補助事業として逐次試掘調査が行われた。また、平成21年度からは、鳥取県埋蔵文化財センターも確認調査を行うこととなり、樋口西野末遺跡他11遺跡、平成22年度は、下甲退休原第1遺跡、殿河内日ノ出峰第1遺跡、殿河内日ノ出峰第2遺跡、石井垣上河原遺跡、赤坂頭無し遺跡、赤坂小丸山遺跡の確認調査を行った。

これらの結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえ、平成21年度から鳥取県埋蔵文化財センターが調査主体となり、樋口西野末遺跡の一部及び下市天神ノ峯遺跡の2遺跡、平成22年度は殿河内定屋ノ前遺跡、殿河内日ノ出峰第1遺跡、下市築地ノ峯東通第2遺跡、下市築地ノ峯東通第3遺跡の4遺跡の本発掘調査を実施し、報告書が刊行された。



第1図 中山名和道路関係遺跡位置図

第1章 調査の経緯

平成23年度は、樋口西野末遺跡、石井垣上河原遺跡、赤坂頭無し遺跡、赤坂小丸山遺跡、殿河内定屋ノ前遺跡、殿河内上ノ段大ブケ遺跡を本調査の対象とした。

【参考文献】

- 大山町教育委員会 2010 『町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』大山町文化財調査報告書第9集
大山町教育委員会 2011 『町内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』大山町文化財調査報告書第13集
大山町教育委員会 2012 『町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ』大山町文化財調査報告書第14集
鳥取県埋蔵文化財センター 2011 『樋口西野末遺跡 下市天神ノ峯遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書37
鳥取県埋蔵文化財センター 2012 『下市築地ノ峯東通第3遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書43

第2節 調査の方法と経過

1 調査区の名称と調査方法

樋口西野末遺跡の調査前の状況は、畑地及び道路である。重機表土剥ぎ後、平成21年度にならい世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東杭名を採った。座標は、D5杭(X: -54190m、Y: -66880m)、E13杭(X: -54200m、Y: -66960m)などとなった。標高値は、国土交通省2級基準点H10-2-13の71.286mを使用した。

検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、光波トランシットによる座標測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー(6×7)判、大型(4×5判)カメラにより、地上又は写真用足場上から行った。また、調査前状況及び調査後状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(ブローニー判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、ブローニー(6×7)判及び4×5判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。

2 調査の経過

平成21年度に調査対象範囲の東端部分(1,372㎡)の発掘調査を実施し、平成23年度はその西側残存部の発掘調査を実施した。なお、平成21年度の発掘調査の成果は、『樋口西野末遺跡 下市天神ノ峯遺跡』として平成23年3月に報告書を刊行している。

平成23年度調査は、まず4月18日から4月20日にかけて重機による表土剥ぎ作業を行い、その後基準点測量及び方眼測量を業者委託した。4月27日には発掘作業員事前説明会を行い、検出作業を開始した。その後、8月3日に農道部分の重機表土剥ぎ作業を行い、調査後航空写真撮影は、9月29日に行った。

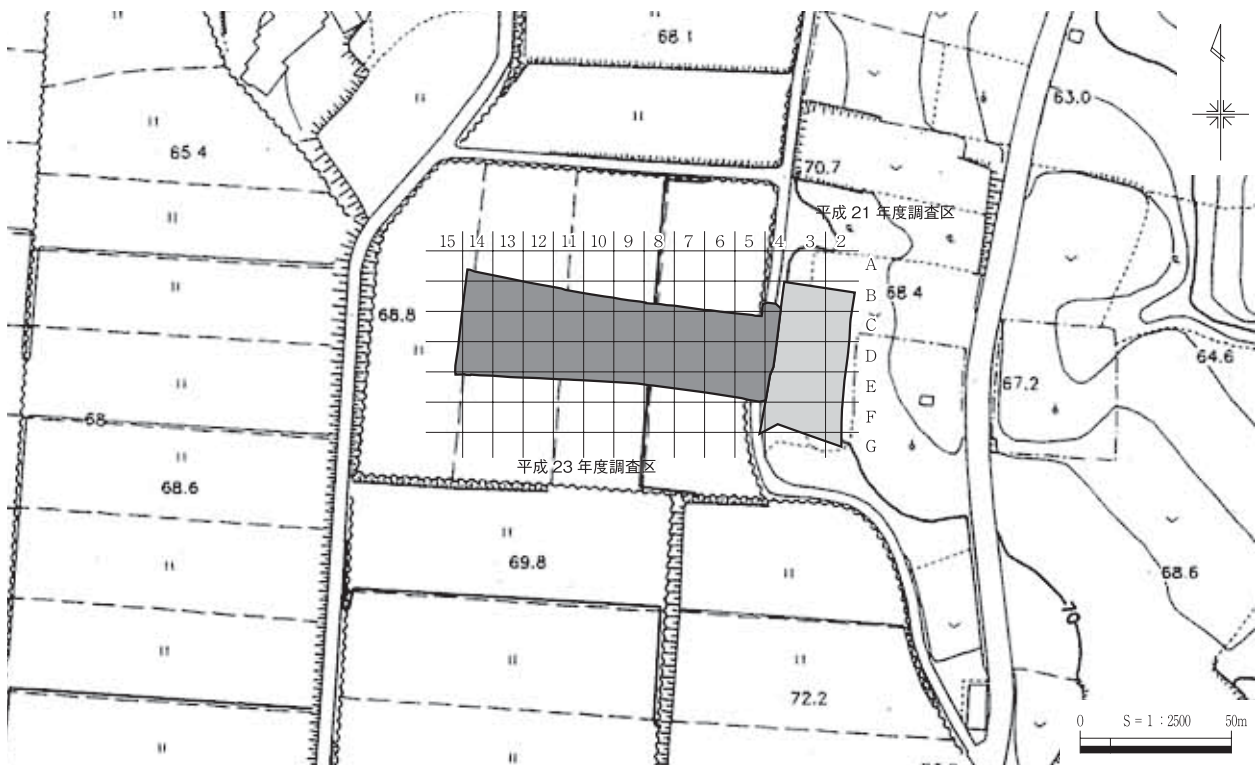
遺構検出及び掘下げ作業は、9月27日まで行った。排土は用地内に仮置きし、必要に応じて国土交通省が場外搬出を行った。途中9月17日には、一般の方を対象とした現地説明会を開催したところ、雨天にもかかわらず県内外から33名の方々に参加いただいた。調査に並行して調査後地形測量を9月16日から業者委託するとともに遺構実測作業を行い、10月5日にすべての作業を終了した。

調査の結果、奈良・平安時代の掘立柱建物跡4、柵列2、土坑2、自然河川・溝5、焼土、ピット群、中世の掘立柱建物跡2、柵列1、ピット群、時期不明の土坑2、焼土などを検出した。

調査面積は、3,566㎡である。



第2図 調査区位置図



第3図 樋口西野末遺跡区割り図

第1章 調査の経緯

第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査、報告書作成を行った。

鳥取県埋蔵文化財センター

所 長 久保 穰二郎
次 長 中尾 淳一(兼総務係長)
総 務 係
副 主 幹 白岩 準市
主 事 楠原 真衣
事 務 職 員 大丸 真紀、岡村 好美

発掘事業室

室 長 山杓 雅美(兼調整係長)
調 整 係
発掘調査員 岩垣 命
事 務 職 員 倉益 知子
調査担当(大山調査事務所)
副 主 幹 牧本 哲雄(統括責任者兼調査担当責任者)
文化財主事 家塚 英詞
発掘調査員 折井 敦
事 務 職 員 尾崎 勇真(6月退職)、犬塚 義人(8月から)、小塩 真生

調査日誌抄

4月18日	重機表土剥ぎ作業(~20日)	8月3日	農道部分重機表土剥ぎ作業
4月27日	発掘作業員事前説明会	8月9日	農道部分検出作業、SK4平面実測、SK6検出写真
4月28日	発掘用具運搬、ベルトコンベヤー設置	8月25日	SA2実測終了、SK6実測終了、SD6断面写真・実測、SK5平面実測
5月17日	SD1検出作業	9月7日	SD4完掘写真、SA4完掘写真、ピット群平面実測
5月24日	SK4検出写真	9月17日	現地説明会開催。33名参加
6月9日	SB3・4検出写真	9月29日	SD1・5・8平面実測、調査後空中写真撮影
6月10日	SB5・6、SD1検出写真	10月5日	測量作業終了。すべての現地作業終了。
6月15日	SB3・4柱痕実測、SB5・6柱穴半裁掘り下げ、SD1遺物ポイント取り上げ、SD5検出写真、炭化米出土		
7月5日	SB3柱穴土層断面写真・実測、SB5・6柱穴完掘、SA1柱痕測量、SD砂層掘り下げ、SK5掘り下げ、西側谷部掘り下げ。		
7月6日	SB3・4柱穴土層断面実測、SD1完掘、SA1柱穴断面実測、SK4完掘写真、SK5遺物出土状況写真、西側谷部土層断面実測、SA検出写真		

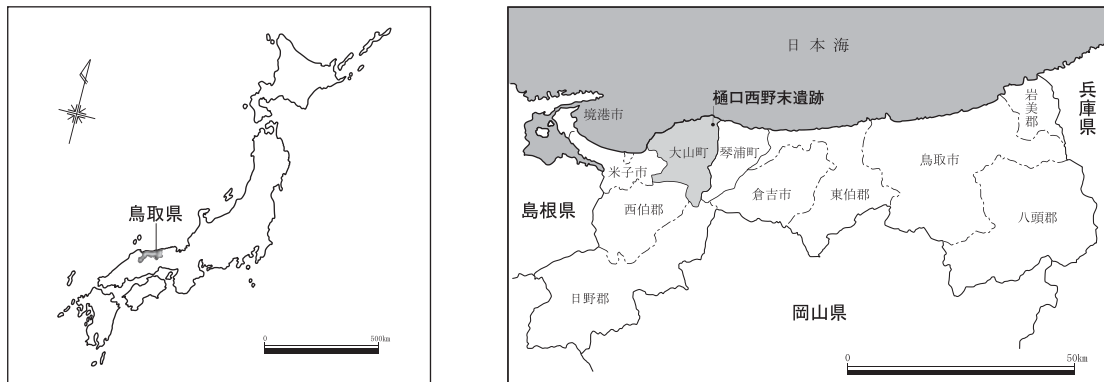
第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

樋口西野末遺跡が所在する大山町は、鳥取県西部、西伯郡の北東部を占める位置にあり、県庁所在地の鳥取市からは西へ約80km、県西部中核都市の米子市に隣接する。町域は、南端の大山(1,729m)を頂点に、船上山(615m)から金屋付近の日本海に至る線を東辺とし、西辺は大山を頂点に下槇原・孝霊山(751m)を結び保田付近の日本海に至る、不整逆三角状に広がる形を呈す。東西約15km、南北約20km、総面積は約189.8km²を測り、人口は18,005人(平成23年12月現在)の農畜産漁業・観光を主な産業にする町である。

本町の地勢は、大山山系から放射状に流れる小河川により開削並びに侵食され残った、手指状に延びる台地上の尾根と急峻な小溪谷が繰り返す火山性台地と、甲川、下市川、真子川、名和川、阿弥陀川流域に発達した平野部からなる。平野部は、肥沃なクロボク地帯で、特に阿弥陀川流域は県内でも屈指の広さとなる扇状地を形成している。台地は、御来屋砂礫層上に主に大山火山灰土の堆積したもので、海岸線付近まで延びている。町内には、前述の大山山麓に源流を発する河川の他、大小計12本の川が日本海に注いでいる。

樋口西野末遺跡は大山町の東端に位置し、琴浦町との町境付近の海岸線から南に約1.9kmの標高約70mの台地上にある。この台地は、大山山系から北側に派生する尾根に挟まれるように扇状に広がっている。台地の基盤層は、火砕流堆積と考えられる礫層上に大山上部火山灰が堆積していたものと考えられるが、周辺は圃場整備の掘削等により当時の地形が改変されている。当遺跡の西側約900mには甲川が北流している。



第4図 樋口西野末遺跡位置図

第2節 歴史的環境

ここでは、樋口西野末遺跡が所在する大山町東部(旧中山町)を中心に、隣接する琴浦町西部地域も含めた周辺遺跡の概要について述べる。

旧石器時代 鳥取県下の旧石器資料は16遺跡で確認されている。豊成叶林遺跡(122)では、AT火山灰下の白色ローム層中で玉髄製ナイフ形石器をはじめ玉髄の剥片が原位置を保持して出土している。その他周辺では、梅田萱峯遺跡(88)でナイフ形石器が、豊成上金井谷峰遺跡(124)で台形石器が、本来の位置を遊離した状態で出土している。

第2章 位置と環境

縄文時代 当該地域は、県内においてもこの時期の遺跡が多数存在する地域である。草創期では、羽田井・退休寺などで有茎尖頭器が表採され、住吉第2遺跡(67)で有茎尖頭器、細工塚遺跡(63)で局部磨製石斧が出土している。

早期では、遺構は伴わないが赤坂後口山遺跡(71)、退休寺飛渡り遺跡(75)、上大山第1遺跡(36)、角塚遺跡(39)、樋口西野末遺跡(132)などで押型文土器が出土している。

前期では、石器製作を行っていたと推定される下市築地ノ峯東通第2遺跡(60)、貯蔵穴が確認された細工塚遺跡がある。

後期では、殿河内上ノ段大ブケ遺跡(137)では、石囲炉をもつ4棟の竪穴住居跡など計5棟の竪穴住居跡が検出され、県内でも屈指の規模となる縄文集落である。また、南原千軒遺跡(琴浦町光)でも石囲炉をもつ竪穴住居跡が検出されており、遺構外から県内6例目となる土偶が出土している。

その他、縄文時代を通じて、落とし穴が殿河内定屋ノ前遺跡(131)をはじめ、八重第3遺跡(91)、小松谷遺跡(68)、下甲抜堤遺跡(70)、赤坂後口山遺跡(71)、下市築地峯東通第3遺跡(59)、小竹上鷹ノ尾遺跡(59)など多数の遺跡で検出されており、狩猟場として丘陵・微高地縁辺部が利用された様子が窺われる。

弥生時代 この地域では前期の遺構は少なく、樋口西野末遺跡、樋口第1遺跡(87)、三谷遺跡(98)などで土器が出土している程度である。

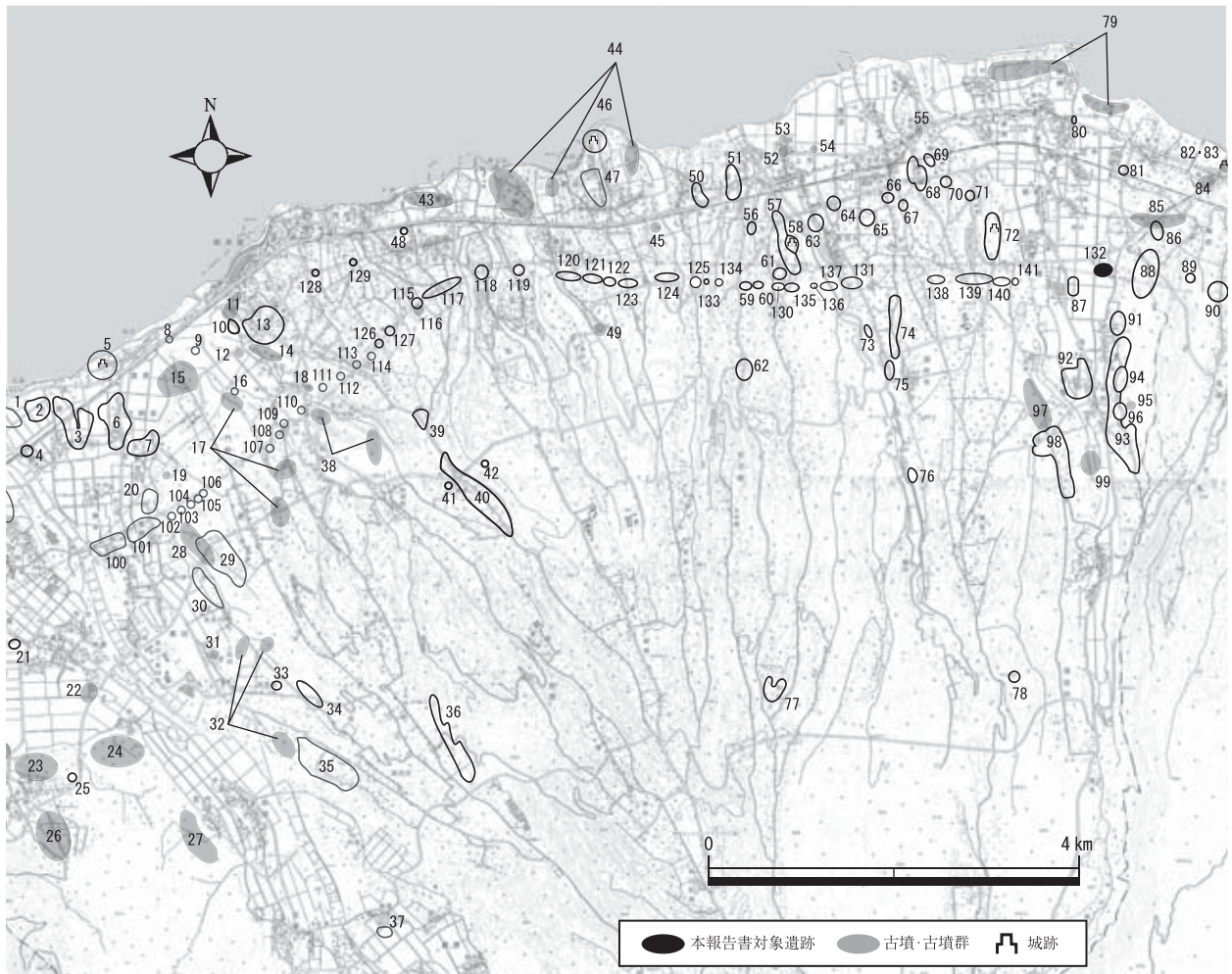
中期になると遺跡数が増え、集落遺跡として細工塚遺跡(63)、退休寺遺跡(74)、退休寺飛渡り遺跡、南原千軒遺跡、殿河内定屋ノ前遺跡、化粧川遺跡(琴浦町赤碕)などが挙げられる。倉谷荒田遺跡(121)では、中期後葉の竪穴住居跡から鉄製品が出土しており、山陰地方における鉄器の普及開始段階の一例となっている。墳墓では墓ノ上遺跡(琴浦町松谷)、別所女夫岩峯遺跡(琴浦町別所)で木棺墓が見つかり、梅田萱峯遺跡では、中期後葉の貼石を施した長方形の墳丘墓(梅田萱峯弥生墳丘墓)が検出された。現時点で県内では最古級の弥生墳丘墓である。

後期には、退休寺遺跡、八重第3遺跡、福留遺跡(琴浦町赤碕)、籠津乳母ヶ谷第2遺跡(90)、梅田萱峯遺跡、梅田東前谷中峯遺跡(89)など丘陵上に集落が多数造営される。湯坂遺跡(琴浦町湯坂)では小型の墳丘墓を埋葬に伴って増築した例があり、山陰地方では珍しい鉄石英製の管玉が副葬されていた。

古墳時代 古墳時代に入ると大型前方後円墳が各地に築かれる。前期古墳は、石井垣上河原遺跡(141)でこの地域においてはじめて確認された。四隅突出型の墳丘をもつ墳墓とそれに後続する小規模な墳墓が計4基が確認された。当該地域の古墳は、ほとんどが中期から後期にかけてのものである。前方後方墳の別所1号墳(笠取塚古墳、全長52m)(琴浦町別所)は、墳形の特徴から前期に築造された可能性がある。

また、中期後半の高塚古墳(岡1号墳)(54)は、朝顔形埴輪・形象埴輪などが出土した直径30mの大型円墳で、当地域の首長墳と位置づけられる。

中期から後期にかけては丘陵や段丘上に古墳や横穴墓が群を成して築造されるようになる。御崎古墳群(79)、別所古墳群(琴浦町別所)、籠津古墳群(83)、坂ノ上古墳群(84)、梅田(栄田)古墳群(85)、束積古墳群(99)、三谷古墳群(97)、豊成古墳群(44)などがある。御崎古墳群・別所古墳群・梅田古墳群では、横穴式石室が採用される直前の時期に、この地域独特の河原石を用いた箱式石棺を主体部にもつものがみられる。



- 1.大塚第3遺跡、2.大塚岩田遺跡、3.大塚塚根遺跡、4.大塚屋敷遺跡、5.富長城跡、6.古御堂遺跡、7.文殊領屋敷遺跡、8.荒田遺跡、9.南川遺跡、10.馬郡遺跡、11.名和公園裏古墳群、12.ハンボ塚古墳、13.長者原遺跡、14.坪田古墳群、15.富長山村古墳群、16.門前礎石群、17.門前古墳群、18.長綱時古墳群、19.原3号墳、20.茶畑山道遺跡、21.清原遺跡、22.中高遺跡、23.長田古墳群、24.平古墳群、25.徳楽方墳、26.源平山古墳群、27.宮内古墳群、28.茶畑古墳群、29.茶畑第2遺跡、30.東高田遺跡、31.高田26号墳、32.高田古墳群、33.高田原廃寺、34.高田第4遺跡、35.高田第10遺跡、36.上大山第1遺跡、37.蔵岡第1遺跡、38.梶原古墳群、39.角塚遺跡、40.栃原遺跡、41.栃原築跡、42.上寺谷たたら、43.東坪古墳群、44.豊成古墳群、45.豊成28号墳、46.長野城跡、47.浜ノ坂遺跡、48.龍光寺掘遺跡、49.倉谷横穴墓、50.松河原第1遺跡、51.松河原第2遺跡、52.岩屋堂古墳(岡古墳)、53.岡3号古墳、54.高塚古墳、55.曲松古墳群、56.築地峯東通遺跡、57.林之峯東通遺跡、58.天守山遺跡、59.下市築地ノ峯東通第3遺跡、60.下市築地ノ峯東通第2遺跡、61.要害ノ峯遺跡、62.築地ノ峰第3遺跡、63.細工塚遺跡、64.向畑遺跡、65.住吉第4遺跡、66.住吉第1遺跡、67.住吉第2遺跡、68.小松谷遺跡、69.林之峯遺跡、70.下甲坂堤遺跡、71.赤坂後口山遺跡、72.石井垣城跡、73.殿河内落合遺跡、74.退休寺遺跡、75.退休寺飛渡り遺跡、76.退休寺第1遺跡、77.二本松遺跡、78.羽田井遺跡、79.御崎古墳群、80.御崎第2遺跡、81.田中川上遺跡、82.籠津城跡、83.籠津古墳群、84.坂ノ上古墳群、85.梅田(栄田)古墳群、86.梅田六ツ塚遺跡、87.樋口第1遺跡(樋口遺跡)、88.梅田壹峯遺跡、89.梅田東前谷中峯遺跡、90.籠津乳母ヶ谷第2遺跡、91.八重第3遺跡、92.樋口第2遺跡、93.八重第4遺跡、94.八重第1遺跡、95.岩屋平ル古墳、96.八重第2遺跡、97.三谷古墳群、98.三谷遺跡、99.東積古墳群、100.押平弘法堂遺跡、101.茶畑六反田遺跡、102.茶畑第1遺跡、103.古御堂笹尾山遺跡、104.古御堂金蔵ヶ平遺跡、105.古御堂新林遺跡、107.門前第2遺跡、108.門前鎮守山城跡、109.門前上屋敷遺跡、110.名和飛田遺跡、111.名和乙ヶ谷遺跡、112.名和衣装谷遺跡、113.名和小谷遺跡、114.名和中畝遺跡、115.西坪岩屋谷遺跡、116.西坪岩屋谷古墳、117.東坪中林遺跡、118.小竹下宮尾遺跡、119.小竹上鷹ノ尾遺跡、120.倉谷西中田遺跡、121.倉谷荒田遺跡、122.豊成叶林遺跡、123.豊成上神原遺跡、124.豊成上金井谷峰遺跡、125.松河原上奥田第2遺跡、126.西坪上高尾原遺跡、127.西坪下馬駄ヶ峰遺跡、128.名和下菅蒲谷遺跡、129.西坪三軒屋遺跡、130.下市天神ノ峯遺跡、131.殿河内定屋ノ前遺跡、132.樋口西野末遺跡、133.松河原上奥田第3遺跡、134.下市前築地遺跡、135.殿河内ウルミ谷遺跡、136.殿河内日ノ出峰第1遺跡、137.殿河内上ノ段大ブケ遺跡、138.下甲退休原第1遺跡、139.赤坂小丸山遺跡、140.赤坂頭無し遺跡、141.石井垣上河原遺跡

第5図 周辺遺跡分布図

後期には、岩屋堂古墳(岡古墳)(52)、長野2号墳、岩屋平ル古墳(95)、豊成28号墳、出上岩屋古墳(県史跡)(琴浦町出上)など切石積みみの横穴式石室をもつものがあり、米子市淀江町域にかけての同一文化圏を形成している。

この時代の集落は、依然として丘陵上に営まれる傾向が強く、前期の八重第3遺跡、下市前築地遺跡、中期から後期の赤坂頭無し遺跡(140)、住吉第2遺跡、南原千軒遺跡などがある。また籠津乳母ヶ谷第2遺跡(90)では、後期の鍛冶工房が検出されている。

古代 大山町東部(旧中山町域)は伯耆国の汗入郡に属する。『倭名類聚抄』によれば、東積・汗入・奈

第2章 位置と環境

和・尺度・高住・新井の6郷が記載されるが、旧中山町域は東積・汗入の2郷が相当する。汗入郡衙の位置については明らかになっていない。

当該地からやや離れるが、琴浦町内には山陰地方唯一の国指定特別史跡である斎尾廃寺がある。金堂や塔、講堂跡が残り、これらを取り囲む土塁状の高まりも存在する。伽藍配置は法隆寺式である。斎尾廃寺が位置する加勢蛇川右岸は伯耆国八橋郡の中心地であったと推定されている。

大山町東部では、小松谷遺跡で竪穴住居跡や掘立柱建物跡、樋口西野末遺跡(132)、八幡遺跡(琴浦町八幡)で掘立柱建物跡が確認されており、田中川上遺跡(81)では溝から8世紀前半の須恵器・土師器がまとまって出土している。細工塚遺跡、樋口西野末遺跡(132)では大型の掘立柱建物群が検出されるとともに墨書土器、転用硯等が出土しており、平安時代の官衙関連遺構か有力層の建物と想定される。

生産遺跡なども確認されており、栃原窯跡(41)は須恵器窯と考えられるが、上寺谷たたら(42)の製鉄炉やその周辺での鉄滓表採事例などから、炭窯の可能性も指摘されている。下市築地峯東通第2遺跡(34)では、平安時代の須恵器窯3基、製鉄炉1基、炭窯多数が検出されている。赤坂小丸山遺跡(139)では製鉄炉1基のほか、それに接続する道路が検出された。大山町名和の名和下菖蒲谷遺跡では、時期は不明であるが古代山陰道推定路線上で道路状遺構を確認したほか、小竹下宮尾遺跡(118)でも道路状遺構が検出されている。

当該地からやや離れるが、大山に築かれる大山寺は、密教隆盛とともに信仰の中心的な役割を果たし、地方豪族に並ぶ僧兵勢力を有すようになる。

中世 律令体制の崩壊とともに封建制社会が形成される。琴浦町南部には標高615mの船上山がそびえる。ここには南北朝期に後醍醐天皇が隠岐から逃れた行宮跡(国史跡)がある。旧名和町域には、名和氏に関する旧跡が認められる。集落遺跡では、南原千軒遺跡、倉谷西中田遺跡(120)で方形館跡や鍛冶関連遺構・遺物が出土した。

また、中世城館が各地に残り、窺津豊後守敦忠の居城とされる石井垣城跡(72)や、天守山城跡(82)、條山城跡(琴浦町太一垣)、大仏山城跡(琴浦町宮木)がある。また、長野城跡(46)・窺津城(檳城)跡(82)など日本海沿岸部にも砦跡が築かれている。門前鎮守山城跡(108)では、大規模な土塁・堀切が検出されている。

なお、窺津豊後守敦忠の帰依を得て1357(延文2)年に開基されたと伝えられる金龍山退休寺は、中世から近世を通じて曹洞宗の大寺院として隆盛を極め、周辺には参詣道の痕跡や道標、一丁地藏が今も残っている。

特徴的な石造物として、琴浦町内の海岸部から船上山にかけて、鎌倉末期と推定される宝塔と宝篋印塔の二様式を合わせもつ独特の形態の赤碓塔が7基確認されている。

【参考文献】

- 中山町誌編集委員会編 2009『新修中山町誌』
 - 名和町誌編纂委員会編 1978『名和町誌』
 - 鳥取県埋蔵文化財センター 1986『鳥取県の古墳』
 - 鳥取県埋蔵文化財センター 1988『旧石器・縄文時代の鳥取県』
 - 鳥取県埋蔵文化財センター 1989『歴史時代の鳥取県』
 - 内藤正中・真田廣幸・日置糸左エ門著 1997『県史31 鳥取県の歴史』(株)山川出版社
 - 鳥取県教育委員会 2004『鳥取県中世城館分布調査報告書』第2集(伯耆編)
- 発掘調査報告書類については割愛させていただいた。